

Title	理財学会会報
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.11 (1921. 11) ,p.1553(141)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211101-0141">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211101-0141</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

し來りたる資本、土地、勞働は營利に關する限り之を拾集包括して研究對象とすべきである』然らば著者の言ふ營利とは何ぞや。現時の生産は將來の販賣を豫想して行ふものであり、且つ費したる費用を償ふて其上而して事情の許す限り、出來るだけ多くの収益を得る事を目的とするのであつて、此費用を償ふて其出來るだけの収益を得んとするのが營利の本質である。而して經濟生活の歸趣に就ては、經濟生活は自己目的を有する生活ではなく、他の更に高次の文化生活への手段であつて、此最高生活に何等かの寄與をなし得る處に經濟生活の眞の意義があらねばならぬと説明してゐる。

即ち著者は從來の經濟學四分法に不満足である事明白である。そして慾望を基礎概念とする經濟學をとりざるは勿論、貨幣を中心概念とする提唱をも排し、營利を中心概念とすべしと主張してゐるのである。現代の經濟が營利經濟である事に異存はない。吾等は勿論著者と同様營利を離れた經濟生活はあり得ないと斷言する。

然しそれ故經濟學の對象を、基礎概念を營利に置くべしとなす主張に對しては直ちに贊同出來ない。又その説明も余りに簡單の爲か、或は所謂認識論的批判の見地よりする考察が充分でない爲か、明確に論理づけられてゐない様に思ふ。吾等の如く哲學の素養なき者にとつては、かゝる部分に對する著者の創見——即ち營利の如何にして經濟學の認識目的を内容的に制約し得るか——を教授していただきたいのである。

然しかうした部分的不満足はあつたが、全體として面白く且つ有益に讀了した。純理經濟學に對する研究が稍々等閑視せらるゝ傾向の見ゆる近頃、斯の如き書を得た事は慶賀に堪えない。それ故經濟學徒ならざる評者の如きまでその微才を忘れて妄評を試みた次第である。私は、自ら年若きと稱する著者の大成を期して待つ一人である。(中山英一)

雜報

理財學會々報

理財學會秋季大會 九月二十二日午後零時半より大ホールに於て開催す。滿場立錫の餘地なく、前同に優る盛況を呈したり。幹事の開會の辭に次ぎ左記諸氏の講演ありたり。

- 一、民衆娛樂問題の經濟生活的基礎 權田保之助氏
- 一、税制整理の若干基本問題に就いて 神戸正雄氏
- 一、アダム・スミス論 高橋誠一郎氏

一、唯心的經濟史觀 賀川豊彦氏  
午後五時半盛會裡に閉會 次いで萬來舎に於て賀川氏を主賓として晚餐會を開く、一同食卓を圍みて歡談を交へ八時散會す。晚餐會出席者左の如し。

- 賀川豊彦氏、小城基氏
  - 堀江、野村、加田、園、金原諸教授
  - 三年幹事 小栗、津田、吉岡
  - 二年幹事 稻上、黒川、中島、小堀、柳、岩崎
  - 一年幹事 竹中、山田、一柳、樫森
- 尚ほ今回西本辰之助教授より金五十圓を理財學會へ寄附せられたり。